

## 異文化理解研修（韓国）参加者レポート 2012

総合政策学部 2年 落合陽平

韓国で過ごした期間は、約1か月でした。最終日は台風が来るなどはプイグもありましたが、この報告で過ごした約1か月は僕たちにとって、今まで経験したことのないとても大きなものでした。

韓国では平日の午前中は授業を受け、午後の授業の日もありましたが、慶州や蔚山見学、テコンドーを実際に体験するなど、午後は主に韓国の文化を学ぶことが多かったです。最後の3日間はソウル観光で記念館や遊園地へ行くなど、ここでも韓国の思い出が多くできました。

韓国へ行く前にテストを行いその結果によってクラスが編成されました。クラスは1組から6組までクラスがあり、授業だけでなく、文化研修もクラスでの行動が多かったです。各クラスに蔚山大学の日本語学科の生徒の皆さんが1クラスに3人から4人まで、授業や私たちの生活をサポートしてくれる「パートナー」として、とても親切にしてくださいました。韓国語が喋れない私たちに言葉を教えてくれ、授業が終わった後に一緒にご飯を食べに連れて行ってくれたり、休日は蔚山市内を案内していただいたりなど、貴重なお休みを削って私達に多くのことを体験させてくれました。蔚山市内では多くの発見をしました。日本の製品や店があったこと、バイクのヘルメットをかぶっている人はほとんどいない。お酒はビール、焼酎、マッコリの3種類しかない、コンビニでは特定の商品を2つ買うともう一つ同じものが付いてくる。食事の面でも、韓国といえば辛い物のイメージが強い方も多いと思います。実際に辛い物の種類は日本よりもかなり多く、韓国の食生活に適應できるか不安もありました。しかし、日にちが経つにつれ、辛さにも適應していき、「韓国料理はこんなにおいしい」と思うようになり新しい韓国料理を食べることが楽しみになりました。

現在、竹島（韓国では独島）問題で、日本と韓国の関係が悪化しているとニュースでもやっています。特に私たちが異文化理解研修期間中に色々なことがあり心配した方もおられたと思います。しかし、テレビから得る情報と実際に訪れて経験したことでは大きく違うものがありました。私たち日本人にとっても親切にしてくれた人も多くいました。テレビだけで得た情報で決めつけるのはよくないと個人的な感想ですが、そう思いました。

最後に、この異文化理解研修に参加した全員が、お互いに高め合い、この研修を通して多くのものを得たと思います、この研修を支えてくださった韓国の皆さん、鄭先生、県大職員の皆さんのおかげで、この研修がとても充実して多くのことを学ぶ良い経験ができました。本当にありがとうございます。

協力いただいた教職員並びに学生ボランティアの皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

■ 研修の様子

